



第37回 スマイル インタビュー



市広報の点訳作業の日に、お邪魔しました。会員の皆さんが資料の読み合わせをされているお忙しい中、インタビューにお答えいただきました。



点訳作業の様子

市広報の点字版ができるまでの工程について教えてください。

市広報を一人3〜4ページ程度に分担して担当を決めます。その後、自宅にて、点字専用ソフトを使ってデータの入力を行います。入力は全部ひらがな、決まり事もたくさんあります。

次に社会福祉協議会のボランティアルームに集まり、2人組で読み合わせをして入力の確認をします。入力ミスがあれば修正した後、点字用プリンターで印刷します。ページ数が元の3倍程度の分厚い冊子が出来上がります。完成品は利用者に郵送し、サントピアや図書館にも置きます。現在の利用者は2人。多い時は8人

おられました。利用者が少ないと思われるかもしれませんが、目の不自由な方のなかで点字が読める方は少数です。

点訳の技術や活動の変遷を教えてください。

活動を始めたのは昭和54年です。その頃は、一文字一文字を手で打っていました。1ページで3回ミスすると全部やり直しになります。

今は、パソコンで入力してプリンターで印刷できるので作業は劇的に楽になりましたが、パソコンの扱いに慣れるまでが大変でした。初めのころは、小説なども点訳していましたが、今は点字図書館で全国から点字図書を取り寄せていただけです。ですから今では大竹市の市広報やごみカレンダー、JRの時刻表などを中心に点訳するようにになりました。



両面点字プリンター

40年以上活動を続けてこられた秘訣を教えてください。

一番は、今この部屋に集まっているような心強い仲間がいること。それから点字が出来上がったときの達成感でしょう。



緑綬褒章の褒状

点字の優れている点を教えてください。

音声と違って、形があるものですから、いつでも何度でも手軽に確認できる点です。



点訳された冊子

障害者にかかわる社会の変化でお気づきがありますか？

テレビドラマなどで障害者の役が多くなってきたように思います。買物物の時も缶ビールや調味料の容器に点字がついているなど、生

活の中のさまざまな場所で点字を見るようになりました。目の不自由な方は、料理・編み物・写真などなんにでもチャレンジされて素晴らしい方々です。私たちの活動が少しでも助けになればと思います。

市民の皆さんに伝えたいことがあればお願いします。

会員を増やしたいです。現在会員は12名(内、男性2名)、40歳代から80歳代のメンバーです。若手の加入を願っています。今年も秋に点字の講座がありますから、是非参加してください。

【お問い合わせ】

大竹市社会福祉協議会  
TEL 0827-152122-1

広報広聴特別委員

- |      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 小田上 尚典 |
| 副委員長 | 寺岡 公章  |
|      | 藤川 和弘  |
|      | 中川 智之  |
|      | 山崎 年一  |
|      | 日域 雅一  |
|      | 細川 雅一  |

発行：令和4年8月1日 大竹市議会

広島県大竹市小方一丁目11-1

TEL 0827-15912183 FAX 0827-15717110